

吹田市立博物館・平成20年度夏季展示「千里の竹」

# 公開シンポジウム

# 千里をかける竹

柏木治次（富士竹類植物園事業本部長）

川野和昭（鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課長）

黒田和孝（奇竹堂・黒田宗傳茶ノ湯竹器師）

小山修三（吹田市立博物館館長）

佐々木長生（福島県立博物館専門学芸員）

佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）

2008年7月18日（金）・19日（土）

吹田市立博物館 講座室

申込不要  
聴講無料

# 吹田市立博物館・平成20年度夏季展示「千里の竹」

## 公開シンポジウム

# 千里をかける竹

### ■構成■

7月18日(金) パートI—研究発表:竹の文化と民俗

「資源としての竹—竹の特性とその利用—」

柏木治次氏 (富士竹類植物園 事業本部長)

「ネマガリダケの民俗誌—磐梯山麓の籠屋聞き書き」

佐々木長生氏 (福島県立博物館 専門学芸員)

7月19日(土) パートII—座談会:千里をかける竹

「竹細工と暮らす、竹細工と生きる」

黒田和孝氏 (奇竹堂・黒田宗傳 茶ノ湯竹器師)

「竹の焼畑—森の再生と持続可能な農耕のかたち」

川野和昭氏 (鹿児島県立歴史資料センター黎明館 学芸課長)

コーディネーター

小山修三氏 (吹田市立博物館 館長)

佐藤洋一郎氏 (総合地球環境学研究所 教授)

### ■関連イベント■

小山修三館長肝入り企画

「市民を交えた、

これがホントのシュンポシオン(饗宴)」

—シンポジウム講師との懇親会

7月18日(金) 18:00～

カフェたんぽぽ(JR吹田駅前)

会費:1500円

吹田市博より送迎バスあり。

\*シュンポシオンとはシンポジウムの語源。  
ギリシア語で、「宴」を意味します。

\*各講師のテーマは変更になることもあります。

### 【概要—企画にあたって】

「藪が荒れとるんですわー」。今回のシンポジウムを企画する中で取材に寄せていただいた京都・押小路の奇竹堂で、三代黒田宗傳さん(19日の座談会に出演される和孝さんのお父さん)が悔しそうにそうおっしゃったのが印象的でした。管理する者もなく荒れつつける里山の実態を端的に示す「竹害」については折にふれ耳にしてきましたが、文字どおり竹に囲まれて暮らす黒田さんの自宅兼工場の古い町家でうかがった「荒れとる」という言葉にはこれまでのどんな説明よりも説得力がありました。黒田さんのいう「荒れた」藪はマダケの林。モウソウチクによる侵食問題だけでなくマダケの林自身が手の施しようがないほど荒れているそうです。手入れされず放置された古い竹のために新しい竹の生育余地がなくなり、関西近郊の竹藪の多くが漸次衰退の一途をたどっているとうかがいました。そんな中でいまなおほんのわずかな歪みもゆるさない黒田さんの仕事ぶりを拝見していると、すみずみにまで竹を活用していたかつての日本人の生活がどれほど細やかな気配りに満ちていたかあらためて思わされました。それはたんに身の周りの道具に対するこだわりだけでなく、近隣の里山をふくむ住空間全体への配慮にまで及ぶものでした。地球環境問題との関連で見直しがせまられている私たちの暮らし—そもそも暮らしを見直すとはどういうことなのでしょうか。本シンポジウムの竹をめぐるさまざまな話題が竹にひめられた魅力とともに現代の環境問題の本質をうかがう機会になれば幸いです。(担当:地球研・鞍田崇)

日時: 2008年7月18日(金)・19日(土) 両日とも14:00~17:00

会場: 吹田市立博物館 講座室

〒564-0001 大阪府吹田市北区岸部4-10-1 ☎06-6338-5500 <http://www.suita.ed.jp/hak/>



聴講無料・申込不要 (両日とも先着120名)

主催: 総合地球環境学研究所(地球研) 文明環境史領域プロジェクト  
「農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境」  
(リーダー: 佐藤洋一郎・地球研教授)

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project>

### 【アクセス】

- JRまたは阪急「吹田駅」より  
「桃山台駅前」もしくは「山田樫切山」ゆき阪急バスにて「佐井寺北」下車徒歩10分。  
「阪急山田」もしくは「千里中央」ゆき阪急バスの場合、「岸部」下車徒歩10分。
- 阪急「南千里駅」より  
「JR吹田」ゆき阪急バスにて「佐井寺北」下車徒歩10分。
- 車でお越しの方は  
名神高速道路・中国自動車道・近畿自動車道「吹田ジャンクション・IC」から20分。
- 徒歩でお越しの方は  
JR「岸部駅」より徒歩20分。阪急「正雀駅」より徒歩25分。